

東海北陸社会教育研究大会
参加報告について

令和元年度
第50回東海北陸社会教育研究大会三重大会
開催要項

大会スローガン

つながる∞つなげる社会教育の力

1 趣旨

社会教育は、地域における「人づくり」を通して社会の発展に寄与してきました。しかし、人口減少と人口構造の変化、地域コミュニティの衰退により、地域では様々な解決困難な課題を抱えています。

ここに、東海北陸6県1市の社会教育委員をはじめとする社会教育関係者が、一堂に会し、各地域における社会教育活動の実践や研究成果について情報を交換し、次世代を担う人づくり、持続可能な地域づくり、人々の生きがいづくりに資する今後の社会教育の振興方策について研究協議を行い、研鑽を深めます。

2 研究主題 だれもが参加したい社会教育の推進

3 開催日 令和元（2019）年10月10日（木）～11日（金）

4 会場 三重県総合文化センター
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234

5 主 催 一般社団法人全国社会教育委員連合
東海北陸社会教育委員協議会連合会
三重県社会教育委員連絡協議会

6 後 援 三重県 三重県教育委員会 津市 津市教育委員会
東海北陸六県市町村教育委員会連合会

7 参加者・参加費

東海北陸各県市町村社会教育委員及び社会教育関係者等

(含 公民館等関係者、行政関係者)

一人 3,000円

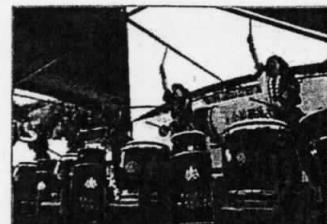
8 大会日程と内容

【第1日】 全体会 10月10日(木) 会場：三重県総合文化センター 文化会館 中ホール

11:00	12:40	13:10	14:10	14:25	15:35	16:00	16:15	17:00	17:30	20:00
受付 (ホール開場 12:00) 役員会 被表彰者打合せ	学習成果 の発表	開会行事	休憩	記念 トークライブ	閉会 行事	移動	分科会 打合せ	受付	情報 交換会	

■ 学習成果の発表

「和太鼓の響きは 心豊かな地域をつくる」
美杉連山のろし太鼓保存会



■ 記念トークライブ

テーマ：今こそ問い合わせ直す社会教育の意義
～つながる～つなげる社会教育の力～

出演者： 鈴木 真理

▶全国社会教育委員会
連合 会長
▶青山学院大学 教授



ながしま
長島 りょうがん

▶三重県社会教育委員会
連絡協議会 副会長
▶三重県生涯学習
センター 所長



■ 社会教育実践交流広場 11:00～20:00 三重県総合文化センター 文化会館

レセプションホール前

三重県内の特色ある社会教育活動の取組をパネル展示にて情報発信します。

【第2日】 分科会 10月11日(金) 会場：三重県総合文化センター内 各会場

9:10 9:30	11:55 12:00
受付	分科会 閉会

分科会名	協議の視点（案）	話題 提供者	ファシリ テーター※1	会場（部屋）※2
1 家庭教育支援	親育ち・子育ちを支援する学びの 場づくり・つながりづくり	福井県 三重県	三重県	文化会館 ・小ホール ・大会議室
2 青少年の健全育成 (含：地域と学校の協働)	地域と学校等の協働による次世代 の担い手づくり	愛知県 三重県	三重県	生涯学習センター ・大研修室
3 地域文化の振興	地域の伝統文化を活かした地域づ くり・継ぐり	岐阜県 三重県	三重県	男女共同参画 センター
4 地域の活性化 (含：高齢者教育)	高齢者の社会参画促進と地域活性 化のためのネットワークづくり	富山県 三重県	三重県	・多目的ホール ・セミナー室A
5 社会教育委員の 役割と課題	社会教育委員活動の活性化	石川県 三重県	三重県	

※1 分科会では、事例発表の後、ファシリテーターの進行によるグループワーク形式の研究協議を行います。
ファシリテーターは分科会全体の進行も行います。

※2 会場（部屋）については、参加申込み状況を踏まえて決定します。

【大会事務局】 第50回東海北陸社会教育研究大会三重大会実行委員会 事務局

〒514-8570 三重県津市広明町13番地 三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課内

TEL 059-224-3322 FAX 059-224-3023

第50回東海北陸社会教育研究大会（三重大会）報告書

氏名 秋松成喜

参加分科会 第5分科会「社会教育委員の役割と課題」

話題提供① 「小さいからできる川北町を好きになる子どもづくり」
～かわきたの明日の子どもを育てる町民会議の取り組み～

石川県能美郡川北町 社会教育委員 佐田 雄幸 氏

川北町は、金沢と小松市のほぼ真中に位置する東西10キロ南北1キロ、人口6,300人の町。公共料金の低廉化や子育て環境の充実等、金沢市など近郊からの転入者が増加している。

社会教育委員4名は、PTAなどからの推進委員6名と10名で、平成7年に立ち上げられた「かわきたの明日の子どもを育てる町民会議」で活動している。

この町民会議の取り組みとして、年1回「みんなの集い」を開催し、子どもたちが参加した1年間の校外活動の体験や青少年講座などの発表を行う。大人たちも参加することで子どもの健やかな成長への支援のきっかけとなっている。今ひとつ「子どもサミット」の開催がある。小中学校各3名9名がテーマに基づき町の今、未来について意見発表、討論する場で、運営はすべて子ども、社会教育委員として相談助言を行う場合もある。

町民会議もPTA子育てサポーター等の人達が集まり全体会を開催、家庭や地域での諸問題について、家庭教育部会、地域教育部会に別れ意見の交換を行っている。子どもサミットでの「どの世代も一緒に楽しめる運動広場が欲しい。豊富な水を生かした町づくり」などの意見も大切にして話し合いを行い、内容の纏めを町に提言している。

町民会議活動は、町を考え問題意識を共有するよい機会となり地元愛の育成に貢献していると感じている。進学、就職などで町外に出ても、また戻りたいと思える町となるよう活動していくこうと思う。と結ばれた。

ちなみに、平成7年地域教育部会で、「数年後新入学生が3人しかいない」との報告を受け対策を町に提言し、大型宅地造成が行われ、更に、前述の様な施策がとられた結果、子育て世代や若年夫婦の転入が増え、平成7年4,500人が今年6,300人と39%(全国2位)増を記録しております。

話題提供② 「社会教育委員の活動活性化への試み」
～鈴鹿市社会教育委員としての活動を通して～

三重県鈴鹿市　社会教育委員　井上　哲雄 氏

鈴鹿市は、三重県の北西部に位置し人口約20万人、面積約195km²、近年自動車関連で成長した。

社会教育委員は、社会教育関係者5名(家庭教育、図書館、青少年育成、PTA、公民館各1名) 学校関係者3名(幼稚園、小、中各1名) の8名で構成され、年2回委員会への出席と研修会への参加が職務となる。

発表者は、公民館関係者として28年に委嘱され、すぐ委員長に推され4年目とのこと、「社会教育委員とは」、からの出発でそのとまどいの心境を開陳されました。

鈴鹿市の委員は全員在任期間が短く、他市町委員との交流等を図ることも含めて、研修会、会議に積極的に参加を試みた。と同時に委員間、行政職員との意思疎通に努力してきた。また、委員会の認知度向上のため、「委員会たより」の発行を始めている。

生涯教育に占める社会教育の割合は大きい。そのための社会教育委員の活動は欠かせないので、一人ひとりが常に問題意識を持ち、法17条の職務を念頭に活動すべきと考える。と自分自身の行動を中心に報告された。

発表に対し共感出来る部分を感じながらも、現状を加味した活動も必要と思料した。

付記 今回の分科会は、話題提供の後の質疑応答の時間を短縮し、参加者を56名のグループ(第5分科会は95名参加、16グループ)に分け討論を行った。リーダーを仰せつかり与えられテーマと、メンバーの提案事項の意見交換を行うことが出来、非常に有意義な企画であった。

尚、前日も記念講演の時間に、全社連会長と三重県生涯学習センター所長とのトークショウが行はれ、その中で2日目の5つの分科会の概略の解説があり、これも今回の研究大会の全体を知るうえで好評であった。

第50回東海北陸社会教育研究大会（三重大会）報告書

委員氏名 鈴木輝二

参加分科会：第4分科会「地域の活性化」（含む高齢者教育）

・協議の視点 高齢者の社会参画促進と地域活性化のためのネットワークづくり

1. 受講場所 三重県生涯学習センター4階大研修室

2. 参加日時 令和元年10月11日（金）9:30～11:55

参加人数 95名

3. ファシリテーター 三重県東員町社会教育委員 朝倉 たま子

4. 話題提供者 （1）富山県南砺市高瀬西地域づくり協議会生涯学習リーダー

兼生涯学習部会長 中井 邦夫

（2）三重県菰野町社会教育委員 鈴木 明美

5. 話題提供（1）多彩な取り組みでふるさとづくり

～世代で繋ぐ生涯学習を目指して～

① 南砺市は平成16年4町が合併。相倉、菅沼の合掌集落、井波彫刻等の遺産があり観光資源となっている。高瀬西地区は人口600人の農業を主とした地域。

② 各種の行事

バレーボール、運動会、ピンポン大会、納涼祭、敬老会、文化祭等の発表会で地域内の人との交流、世代の違う子供たちへの参加呼びかけを行っている。

感想 人口の少ないことを強みに多くの人の参加できる行事を実施して地域住民全てが顔見知りになれるよう良いと思いました。

6. 話題提供（2）高齢者の社会参画促進と地域活性化のためのネットワークづくり

① 菰野町は鈴鹿山脈の麓にあり人口約4万、4人に一人が65歳以上の町。

② ジャスミン高齢者教育振興基金。

津市在住の匿名者の私財3000万を出資し設立

高齢者教育、地域活動、青少年との交流等の趣旨に沿った施設、団体に助成

菰野町は伝統文化継承、青少年との交流活動、健康講座等の助成を受け事業を実施。

感想 事業を行うには予算が必要基金の活用ができ幸せな町だと感じた。

7. グループ別交流

分科会参加者が4～6人のグループに分かれ話題提供を聞いて学んだこと、印象に残ったことを共通の紙に各自が記入、話し合いを実施。

感想 公民館での活動している人がほとんどよし市とは活動に仕方が違うと感じた。

【まとめ】

人口減少高齢化が進み役員のなり手がなかつたり、定年後の地域の活動に参加しない人が増加しているいろんな行事への参加は元気の源と思って頑張ろうと思います。

第50回東海北陸社会教育研究大会（三重大会）報告書

委員氏名 野口 尚子

参加分科会：第1分科会「家庭教育支援」

話題提供① 福井県勝山市 「家庭内活動と学びを考える」

勝山市は人口約23,000人、高齢化率35.7%（平成31年4月1日現在）の田園都市である。

市が行った未就学児童・小学生がいる保護者を対象にした「勝山市子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート」によると、回答者はほぼ全世帯が核家族だが、敷地内もしくは近所に祖父母が住んでいて子育て相談がしやすく、緊急時には頼ることが出来る。未就学児童は幼稚園・保育園を9割以上が利用し、待機児童はない。保護者は子どもが小学生になったら放課後は児童センター（学童保育）を利用したいと考えている。以上のようなことから父母は比較的安心して就労できる環境にあり、実際に共働き夫婦が多い。

最近の未就学児童の保護者は我が子への教育についての関心が高く、早いうちから情操教育に熱心に取り組む人が多くなっている。保育園等での幼児教育も学びのカリキュラムが組まれているが、保育施設によってその水準にはばらつきがある。国の制度のもと、幼児教育における共通水準の確保が必要ではないか。

話題提供② 三重県津市 「ワクワク・ドキドキ中央公民館で遊ぼう～家庭教育力を高める～」

子どもたちは学校・塾への機会が多く、保護者は多忙な環境にあり、家庭・社会教育等の分野に触れる機会が少なくなってきていて、家庭教育力の低下が起きている。またこの世代の公民館の利用はほとんどない。このような状況で、平成29年度から社会教育委員の取り組みが始まった。

内容としては、年1回（6月第4日曜日）津市中央公民館全室において、10時～15時に、公民館受講者、三重大学、高田短期大学、市民団体及び個人の協力を得て、未就学児～小学6年生とその両親・祖父母などの子育て家庭を対象に、実行委員会、ボランティアスタッフが「互助、手作り」ブースを立ち上げ、来場者と共に学びあう環境をつくった（ブース例：お茶会体験、マジック体験、お菓子作り体験、英語で遊ぼう、等々）。

当初開催場所の知名度が低く、広報の仕方を工夫した結果、参加者数は増加した（1年目200人、2年目500人、3年目700人）。事業の趣旨の理解が深まることで1家族あたりの参加人数が増え、特に父親の参加が増えた。

グループ交流 「誰もが参加したい社会教育」とは、についての話し合い

現場の主催者の声として、公民館行事への参加人数が少ないという悩みが挙がった。それに対し、誰もが参加したい社会教育は理想だが、ニーズは多様化しており、参加人数は少なくとも必要とされる行事が開催されることに意味があるのではないか、との意見が出た。

まとめ

話題提供①の福井県は全国学力テスト第3位にランクインされるなど、教育には熱心な土地柄のようだ。今回話題提供された2事例を聞くだけでも、地域によって必要とされる「家庭教育支援」は違うのだなあと感じた。だからこそ、地域をよく知る社会教育委員の活動が重要になってくるのだとも思った。

第50回東海北陸社会教育研究大会（三重大会）報告書

委員氏名 大地由美子

参加分科会：第2分科会「青少年の健全育成」

1 名古屋市 青少年の力を生かしてまちづくりに貢献！

生きる活力にあふれ、たくましく、心豊かな青少年を育成するため、青少年が地域社会に貢献できるように条件整備をし、活動を支援することに努めている。その一つとして、名古屋市青少年交流プラザの事業「サステナ（持続可能な）まち計画」を行った。地域連携に積極的な大学とY商店街を青少年交流プラザが結び、三者の連携事業が実現した。

- ① 地域の未来を対話（地域の未来の「ありたい姿」について）
- ② 「まちすごろく」を作ろう（地域の未来の姿を考えながらのストーリー作り）
- ③ 企画の準備
- ④ 商店街夏祭りでの実践（ブース出店、制作過程のパネル展示）

青少年が地域の人々の営みを直接知ることで、地域やまちに対する関心が高まり、効力感を持つ青少年の姿が見られた。

2 三重県いなべ市 放課後子ども教室ほくせいの取り組みとあゆみ

いなべ市は、三重県の北端、名古屋から車で50分の距離にあり、活力あるまちである。「体験は宝、宝物は一生の財産に！」をテーマにした放課後子ども教室は、活動8年目になる。158教室からスタートし、今年は471教室と、活動を進展させている。

- ① 年間で複数回開催のレギュラースクールと単発のオープンスクールを開催する
- ② 保育園・小学校での出前教室を開催する
- ③ 自治会や子ども会など地域イベントに参加する

運営にあたり、次のことを行った。

- ① 講師会議の開催（放課後子ども教室の基本理念・目標について説明）
- ② 報告会の開催
- ③ ①②で出てきた課題の解決（具体的な方策の提案）

成果の発表として「子どもまつり」を開催し、作品展示や舞台発表を行う。講師や参加者とのつながりが広がり、参加者も年々増え、3000人になった。幼少期の体験は生きる力に関わる大切なものであると受け止め、放課後子ども教室をさらに発展させていきたい。

3 まとめ

地域の講師と参加者のつながりを大切に、子どもの育成を図ったり、大学と連携したりした実践発表であった。まずは青少年が地域とつながる環境づくりに努めていくことが大切であると感じた。

令和元年第1回社会教育委員会（令和元年5月30日）での提言に対する回答